

日本学術振興会の特別研究員と海外特別研究員について
Research Fellow of JSPS and JSPS Postdoctoral Fellow for Research Abroad

松木 則夫^{1,2} (¹東京大学大学院薬学系研究科, ²JSPS)

日本学術振興会が大学院生や大学院修了後の若手研究者が研究に専念できるように支援する制度として、特別研究員および海外特別研究員制度がある。「特別研究員」制度は優れた若手研究者に、その研究生生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的として、大学院博士課程在学者及び大学院博士課程修了者等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を採用し、研究奨励金を支給する制度である。特別研究員には DC1(3年間。採用時に博士課程1年＝入学前に申請)、DC2(2年間。博士課程在学中に申請)と PD(3年間。博士課程修了者)がある。いずれも研究奨励金の他に年間150万円以内の研究費補助がある。PDに採用された者の中から、世界最高水準の研究能力を有する若手研究員を養成・確保する目的で特に優れた研究能力を有する者を特別研究員-SPDとして採用し、さらに優遇する制度も設けられている。また、平成18年には出産・育児による研究中断者への復帰支援フェローシップが創設された。海外特別研究員制度は、我が国の学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者を海外に派遣し、特定の大学等研究機関において長期間研究に専念させるものである。